

千葉大学感染症情報（風しん）

2013年3月28日

全国的に風しんが流行しています。
患者のほとんどが成人男性です。

千葉市によれば、平成24年の風しん発生報告数は、過去5年間で最多となり、先天性風しん症候群の報告数が5例と平成16年の10例に次ぐ値となっています。風しんの増加傾向は数年持続することが知られており、今後、風しんや先天性風しん症候群の増加傾向が持続することが懸念されています。

先天性風しん症候群とは、免疫のない女性が妊娠初期に風しんにかかることによって、風しんウイルスが胎児に感染して、出生児に起こる障害のことです。三大症状は先天性心疾患、難聴（高度難聴であることが多い）、白内障で、その他、症状は多岐にわたり、それ自体の治療法はありません。予防が重要となります

妊婦への感染を防ぐため、次の方は予防接種（MRワクチン）を受けることを是非検討して下さい。

1. 妊婦の夫、子供及びその他の同居家族（妊婦は接種できません。）
2. 10代後半から40代の女性（特に、妊婦希望者又は妊娠する可能性の高い者）
3. 産褥早期の女性（授乳中でも接種可能です。）

